

ユーザー訪問 **かわぞえ薬局** (佐賀県唐津市)

# 調剤ミスを防止する「ミスゼロ子」は “1人薬剤師”の薬局に有用なシステム

薬剤師1人、事務員1人のスタッフ構成で運営されているかわぞえ薬局では、調剤過誤を防止するクカメディカルのバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入。「1人薬剤師の不安が解消され、全力で患者様に集中できる心のゆとりが生まれた」という。

## 1人薬剤師の厳しさを実感

佐賀県北西部に位置する唐津市。2005年、その唐津湾沿岸の故郷の地で川添善之氏はかわぞえ薬局を開設。唐津東松浦薬剤師会の副会長も務め、同地域の薬剤師を牽引する役割も担う。

同薬局では、内科、消化器科、呼吸器科、胃腸科、放射線科を標榜するクリニックからの処方箋を中心に1日約30枚の処方箋を応需。面分業であることに加え、ジェネリック薬の比率も増えているため、開業当時は300程度だった備蓄医薬品は現在900まで増加しているという。



かわぞえ薬局の川添善之氏 (管理薬剤師)

「副作用の有無の確認などを中心に服薬指導を行っていますが、特に気になるのは、症状が少しやわらぐと自己判断で服薬を中止する方が多いことです。佐賀県薬剤師会では残薬ゼロ事業を行っており、私も『余っているお薬があれば、持ってきていただけますか』とお願いし、服薬状況をチェックするようにしています。そして、患者様の生活状況に合わせ、一包化や服薬時刻の変更などのご提案を行っています」

こう語る川添氏は、在宅訪問サービスを始めた頃から多忙になり、調剤上の不安を抱えるようになったという。

「小さな個人薬局では当薬局のように1人薬剤師で運営しているところは少ないと思います。1人薬剤師の厳しさは、調剤・監査・投薬を全て1人でやらなければならないことです。しかも薬の規格が増えてきて、ちゃんと20mgで調剤したかどうか、40mgだったろうかなどと、非常に不安になってきた



JANコード、GS1-RSSコードに加え、卸会社からの分割販売薬品コードにも対応可能

のです」

その不安を解消したのが、「ミスゼロ子」だった。

## 全力で患者に集中できる心のゆとりが生まれた

川添氏が、調剤過誤防止を安全面から訴求したバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入したのは2008年。「知り合いから『ミスゼロ子』の存在を教えられ、ある学会会場の展示デモで試してみたところ、これは使えるという手応えを得て導入に踏み切ったのです。1人薬剤師が営む小規模の調剤薬局でも十分に購入できる価格であることも魅力的でした」

導入後、規格間違い、調剤漏れはなくなり、「全力で患者様に集中できる心のゆとりが生まれた」と川添氏は述べ、さらに次のような「ミスゼロ子」のメリットを挙げる。①確実に証拠が残る。②操作が簡便で、調剤時間も増えない。③調剤ミスを画面表示とエラー音で二重に注意喚起してくれる。④分割販売薬品コードにも対応可能。⑤半錠、1錠の違いも識別可能。⑥医薬品マスタの更新が迅速。⑦どのレセコンとも連動し、レセコンの入力ミスも分かる。⑧JANコードに加え、GS1-RSSコードにいち早く対応しており、より確実にチェックできる。

川添氏は「他の薬剤師の先生に『ミスゼロ子』の導入をすすめることがあるのですが、『私は調剤ミスをしないから不要です』という答えが返ってくるのが少なくありません。しかし、ヒューマンエラーは必ず起きる、という前提に立ってものごとを考えるべきだと思います」と指摘する。

同薬局では投薬シーンを録画するWebカメラを独自で使用しているが、今回、高まる画像記録のニーズに応えるために、オプションとして「ミスゼロ子Camera」(高画質な動画・音声を記録)が発売された。「『ミスゼロ子』は1人薬剤師の薬局に有用なシステム」と川添氏は話す。



地域に密着した調剤薬局として信頼されているかわぞえ薬局